

第十二稿 阿久和川（まほろばの川づくりと環境整備）

阿久和川は泉区、瀬谷区、戸塚区を流れる境川水系の2級河川です。
第十二稿は、まほろばの川づくり、河川環境整備について紹介します。

1 阿久和川とは

阿久和川は、瀬谷区三ツ境付近を源流とする境川水系柏尾川の支川であり、瀬谷区、泉区、戸塚区を西から東へ流れる、流路延長5.51kmの2級河川です。
平成5年度より「まほろばの川づくり」等の整備事業が行われました。

A



阿久和川案内図



集いのまほろば付近



憩いのまほろば付近

阿久和川の由来と源流

「阿久和」とは、新羅の古語で水を意味する「アカ」に因むともいい、また、「アクワ」は「川の流れの曲がった様」を意味するといわれています（引用B）。

源流のひとつは、瀬谷区三ツ境商店街付近といわれています。以前この付近には、「鎌取池」と名付けられた灌漑用のため池があり、「むかし、阿久和川の源、三ツ境の奥深い森の中に鎌取池という大きな池がありました。」で始まる瀬谷区の民話に残されています（引用C）。

また、瀬谷区の長屋門公園内も源流の一つとされています。

阿久和川の名所

戸塚区間は、所々に桜並木があります。

春は、河床に咲く菜の花の黄色と、桜のピンク色が美しく、彩り豊かな様子が見られます。



引用・参考) A：横浜の川（平成30年3月作成）、河川企画課所蔵

B：「横浜の町名」横浜市市民局 平成8年、瀬谷区ホームページ「瀬谷区の町名とそのあゆみ」より引用
(<https://www.city.yokohama.lg.jp/seya/shokai/gaiyo/tyoumei.html#akuwatyou>)

C：泉区ホームページ「新橋・岡津を流れる「阿久和川」」より引用

(<https://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/shokai/rekishi/ayumi/imamukashi/2-shoshi/3-michi/michikawa-11.html>)

その他上記写真：河川企画課所蔵

2 「まほろば」とは

阿久和川では、まほろばの川づくりを行いました。が、「まほろば」という言葉は、古事記の中でヤマトタケルノミコトが大和の国を偲んだ歌にある「まほろば」からきており、「素晴らしいところ」という意味があります。

「古事記」景行紀

やまと あおがき やまごも やまと うるは
倭は 国のまほろば たたなづく青垣 山隠れる 倭し麗し

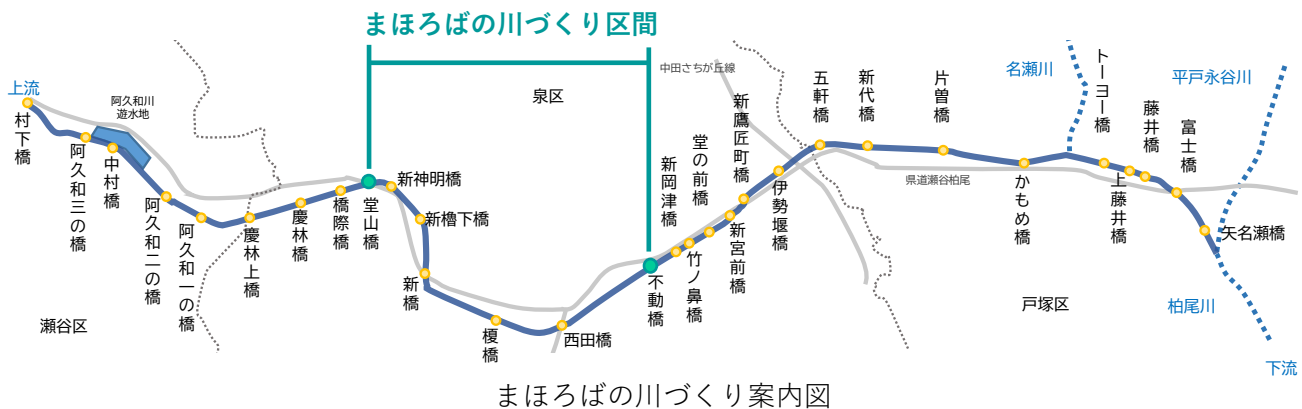
倭は 国中で素晴らしい国 畳み重なった青々とした垣のようにめぐらされている
山に囲まれている 倭は本当に美しい

3 まほろばの川づくり

「まほろばの川づくりモデル事業」は、高齢化社会等に対応した「すべての人にやさしい河川環境の実現」を目標とした、建設省河川局の平成5年度新規施策でした。

横浜市では、平成4年度に関係各局、区及び地元住民の声を取り入れるとともに、福祉関係専門家の助言を踏まえながら「阿久和川まほろばの川整備計画」を策定し、平成5年3月31日に認定を受けました。対象区間は、改修区間の中程にあたる泉区堂山橋～不動橋間約1.5kmとなります。

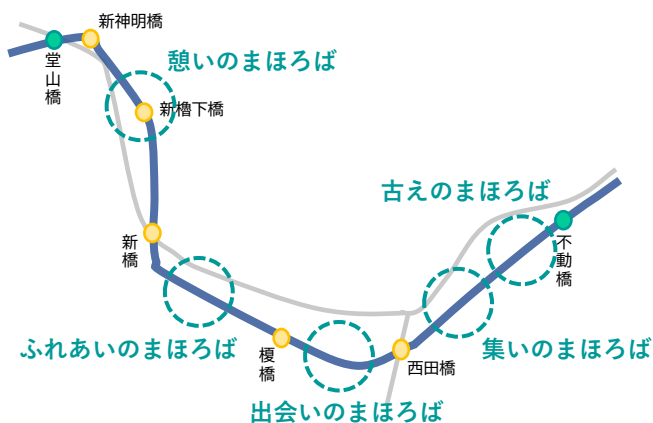
阿久和川まほろばの川づくりモデル事業では、次のような川づくりを目指し、河川改修に併せて地域の人々の豊かな暮らしを支える施設整備を推進しました。



川づくりのコンセプト

- 高齢者・障害者・幼児等を含むすべての人々が集い、遊び、交流する福祉環境要素として機能する川
- 自然・歴史などを活かしたアメニティ空間として、地域の生活環境向上に役立つ川
- 川を軸とした安全な移動ネットワークの形成により、地域の結びつきを強める要素として役立つ川

4 まほろばの拠点



まほろばの拠点案内図

まほろばの川づくりでは、治水安全度の向上を優先しつつ、河川各所の環境特性を活かしながら、すべての人々が利用できるよう配慮した5箇所の拠点を整備し、河川を軸とした移動ネットワークの形成を行いました。

具体的には、緩傾斜の護岸、水辺へのスロープ、河岸のデッキ、休憩施設、トイレ設置及び水辺の親水広場等、周辺の自然景観や歴史的資産と調和したコミュニティ空間の整備を行いました。

まほろばの拠点整備の様子は、次頁以降に紹介します。

憩いのまほろば

▶ 昔ながらの街並みの雰囲気にとりながら、水辺で憩う空間



中丸家長屋門を中心にした整備・玉石護岸



中州広場、休憩スポット、トイレ

ふれあいのまほろば

▶ 自然のやさしさと人のふれあいが感じられる水辺空間



階段護岸テラス、親水デッキ、水辺へのスロープ、緑の緩斜面、休憩スポット



出会いのまほろば

▶ 日々の暮らしの中で人と川が会い、また人と人が会う水辺空間



水辺へのスロープ、橋詰広場・休憩スポット、親水デッキ



集いのまほろば

▶ 老人から子供まで地域の人々が集い、活動する水辺のにぎわい空間



中央部には「集いの橋」と名付けられた立体的に檣を組んだ円形の橋があります。通路に設けた手摺り、車椅子でも水辺に近づくスロープ及び水辺につづく木製デッキ等の仕様については、福祉関係者の意見を聞きながら整備した点も特徴として挙げられます。



集いのまほろばオープン記念の様子

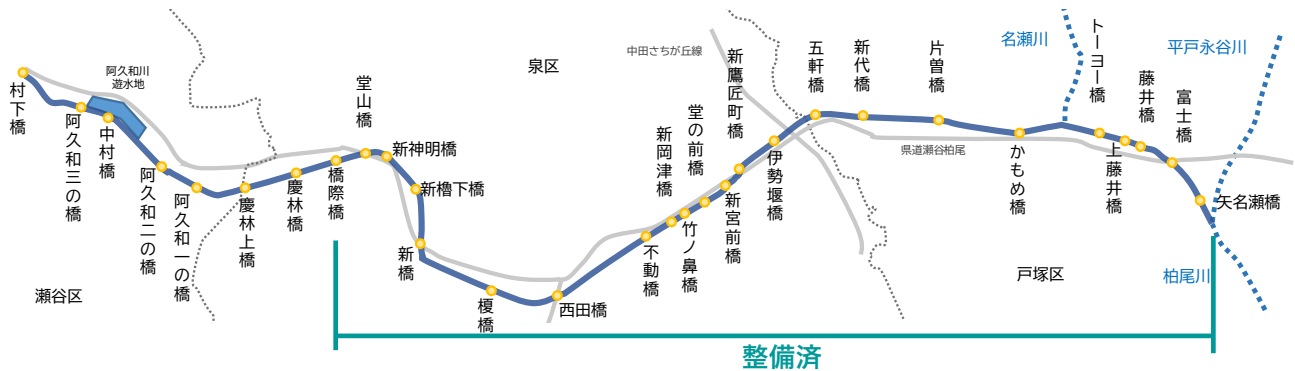
古えのまほろば

▶ 水音のざわめきに包まれて、街の歴史を味わう水辺空間



5 阿久和川の河川改修

阿久和川の河川改修は、改修計画区間が戸塚区の柏尾川合流点から瀬谷区の村下橋であり、改修延長は5.44kmとなります。昭和46年度に着手し、現在は泉区の橋際橋まで河川改修が完了しています。



阿久和川河川改修計画区間案内図



阿久和川遊水地（瀬谷区）



阿久和川中流（泉区）

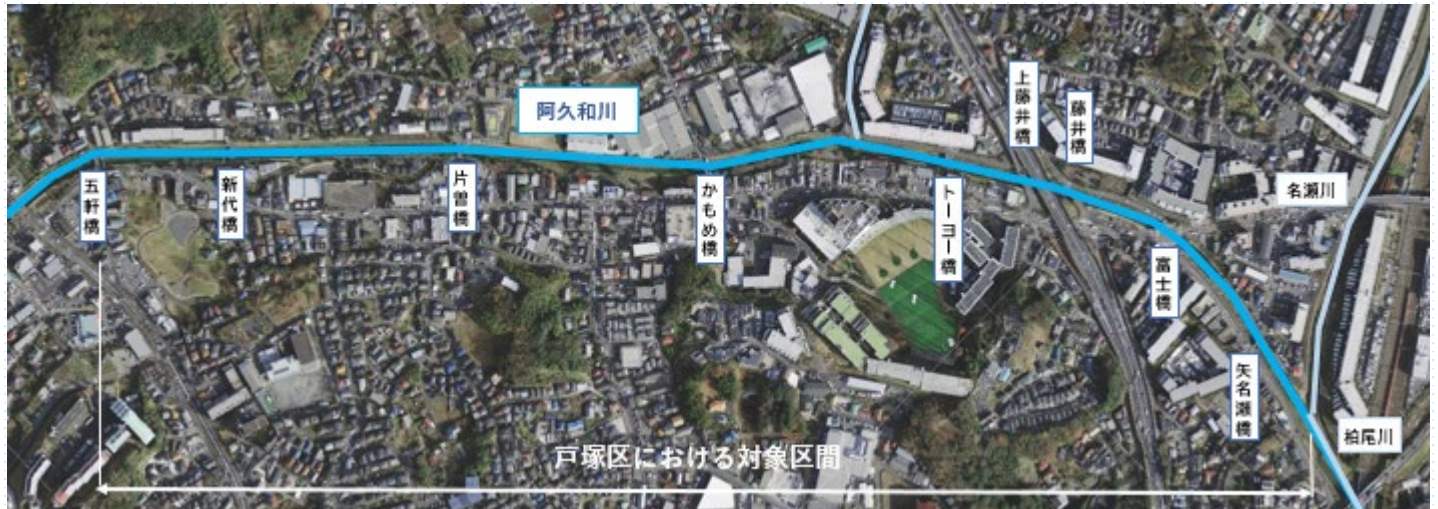


阿久和川下流（戸塚区）

6 阿久和川における環境整備 ～水・人・緑AQUAさんぽ道～守（護）る、育む、集う～

阿久和川は、「川辺の散歩道整備」（名瀬川合流点～伊勢堰橋）や「まほろばの川づくりモデル事業」などいくつかの環境整備事業を行っていますが、主に戸塚区間で行った阿久和川の環境整備について紹介します。

D



阿久和川河川環境整備区間案内図

環境整備の主な地域となる戸塚区上矢部町は、阿久和川に関心が高く、上矢部地区まちづくりプラン(平成13年度に策定)では、町を流れる阿久和川の環境整備についても示されています。

地区プランの実現を目指して設立された上矢部まちづくりの会は、地区内の上矢部小学校と連携しながら阿久和川沿いの美化活動等を定期的に行う等（引用E）、阿久和川を軸とした活動も活発に行われていました。

このような地域の熱意を背景に、平成15年に地域の皆様で阿久和川の環境整備について考えるワークショップを開催し、環境整備基本計画を作成しました。

基本計画では、テーマとして「水・人・緑AQUAさんぽ道～守（護）る、育む、集う～」を掲げ、阿久和川戸塚区間を3つのエリアに分けました。

- 生き物を保全する「保全ゾーン」
- 生き物と触れ合える「生きものゾーン」
- 川遊びや川の観察を行える「あそびゾーン」

また、低水路の設置、柏尾川合流部から五軒橋までの区間を川辺の散歩道にすることも決められました。



ワークショップの様子

F



阿久和川環境整備基本計画図

引用・参考)

D：国土地理院ウェブサイト (<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>) をもとに河川企画課作成

E：戸塚区ホームページ「上矢部地区におけるまちづくり活動」より引用

(https://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/kurashi/machizukuri_kankyo/machizukuri/totsuka_machi/torikumi/kamiyabe2.html)

F、上記写真：河川企画課所蔵

この計画に基づき、低水路の整備やアクアランドと呼ばれる親水拠点の再整備等を行いました。

また、散策しやすいよう未舗装だった河川管理用通路の整備、転落防止柵の更新等も実施しました。整備後も上矢部まちづくりの会による美化活動や阿久和川に関する活動が行われています。

平成20年には、国土交通省関東地方整備局主催による「関東のいい川づくり」の事例で、20事例中1位となりました。平成28年には「関東・水と緑のネットワーク拠点（引用G）」として上矢部まちづくりの会及び「水・人・緑 AQUA さんぽ道」が登録されました。

管理用通路の整備



砂利道



舗装・柵設置

低水路の整備



河川内は移動が不可



低水路の整備等により河川内の移動が可能に

親水拠点の整備



階段状の植栽ますの一部に蓋をして、階段及びステージで使用。地域イベント等に活用。

サインの設置



橋ごとに距離標を設置し、散歩等で場所や距離の目安を確認できます。

